

<p>■After 建築名称 下段:英語名</p>	<p>鋸南町都市交流施設-道の駅 保田小学校 Michi-no-Eki Hota Shogakko</p>		
<p>建築用途</p>	<p>大分類 宿泊施設、商業施設、アミューズメント</p>	<p>小分類 道の駅(簡易宿泊所、物販、飲食、銭)</p>	
<p>改修設計者</p>	<p>N.A.S.A設計共同体 URL</p>		
<p>所在地</p>	<p>千葉県安房郡鋸南町保田724 Google Map</p>		
<p>改修年</p>	<p>2015年オープン</p>		
<p>建築規模</p>	<p>3,486.73㎡</p>		<p>After 「まちの縁側」の内観:テントや白黒パネルにより室内環境が制御され、夜は宿泊客の交流スペース</p>
<p>掲載書誌</p>	<p>・新建築2016年1月号 ・DETAIL225 ・公共建物の長寿命化 Vol.4 ・リノベーションの教科書 ・廃校再生ストーリーズ ・読</p>		<p>撮影者提供者 撮影:桐原武志 2023年</p>
<p>賞・選定</p>	<p>・2019年建築学会作品選集 ・JIA優秀建築100線 ・千葉県建築文化賞</p>		<p>概要 after 小学校の記憶を遺しながら、都心から人呼び込み、町の人々が経済活動を行える施設を目標にプロポーザルを実施し、都市交流施設(道の駅)として甦らせた。</p>
<p>資料・その他</p>	<p>URL</p>		
<p>■Before 建築名称</p>	<p>保田小学校</p>		
<p>建築用途</p>	<p>大分類 教育施設</p>	<p>小分類 小学校</p>	<p>概要 before 120年の歴史を持ち700人の生徒がいたが、少子化により75人までに減少し2014年に閉校となった</p>
<p>■写真 Before 旧校舎</p>	<p>After 教室を2つに仕切った宿泊室:黒板やランドセル置場、机など教室の痕跡が遺されている</p>		<p>After きよなん市場:ポリカボネートの外壁から光が入り、明るい室内に地産品や土産品が並ぶ</p>
			
<p>撮影者提供者 提供:道の駅 保田小学校</p>	<p>撮影者提供者 撮影:桐原武志 2023年</p>		<p>撮影者提供者 撮影:桐原武志 2023年</p>
<p>■リノベーション内容</p>	<p>キーワード 用途変更、外観改変、増築、痕跡</p>	<p>内容 小学校の記憶を遺しながら、都心から人呼び込み、町の人々が経済活動を行える施設(みちの駅)とした好事例である。プロポーザル応募要項になかったが、屋内運動場の外壁上部を取り払い、耐震工事を行った後、光がコントロールされているポリカボネート板に変えることで、明るいまちの駅となり、地域の産業の活性化に寄与している。 校舎のバルコニーの先に幅2.4mのスペースを増築する事により、宿泊室の外に、バルコニーと合わせ幅4m長さ70mの「まちの縁側」と呼ばれ半屋外スペースを設け、昼は観光客の休憩所、夜は宿泊客リビングと交流の場になり、この建物に新たな魅力を与えている。 施設の至る所に遺されている小学校の痕跡が建物に個性を与えている。例えば、宿泊室には黒板やランドセル置場、机、椅子が遺され、学校に泊っているという非日常体験ができる。毎日9時になると懐かしい学校のチャイムがなり、広場では宿泊客だけでなく住民、観光客も参加してラジオ体操が行われる。</p>	
<p>■備考</p>	<p>環境への考慮も見る事が出来る。まちの縁側のテントは熱気を溜めたり日射を反射させている。外壁側に設けられた白黒のパネルを可動することで夏は白面を外側に向け太陽光を反射、冬は黒面にし太陽光を吸収し室内側に放出する仕組みになっている。(右写真)</p>		
<p>■作成者 氏名/所属</p>	<p>桐原武志/Free JIA再生部会</p>		<p>管理者記載</p>